

DI 調査結果（令和3年10月-12月期）

一般社団法人石川県鉄工機電協会

概況総括：『「売上高」はさらに改善し好調を維持しているが
 原材料価格の高騰による収益逼迫や部品不足による生産調整が出始めている』

【調査概要】

1. 今期(令和3年10月-12月期)の業況調査 DI12 項目では、「売上高」など8項目がプラスとなり、「原材料価格」など4項目がマイナスとなった。
2. 現在の経営状況を示す「売上高」から「生産設備」までの9項目では、
 - (1) 景況感を端的に表す「売上高」が31.3(前回13.6)とさらに改善しており、工作機械や建設機械関連が牽引している。一方、急激に上昇を始めた「原材料単価」▲84.8(前回▲75.0)は、原料高や需要増等の影響により更に上昇し、「収益状況」▲0.8(前回1.2)に影響を与えている。
 - (2) 現場の繁忙さを表す指標では、「操業率」14.6(前回3.9)、「受注残」8.6(前回9.9)、「生産設備」13.7(前回10.1)と、好調を維持している。
3. 来期については、「来期受注」16.7(前回25.3)、「来期資金繰」0.0(前回7.0)と一服感があるが、部品入手困難による生産調整や原材料価格の高騰への懸念から「来期採算」▲2.9(前回7.0)が4期ぶりにマイナスに転じている。
4. 「企業経営上の悩み」については、引き続き「人材不足」が30.9(前回30.1)とトップとなっているが、「原材料価格」が29.6(前回19.9)と急増しており、収益・資金繰りへの不安材料となっている。
5. 新たな変異株の影響に不安はあるが、経済活動は確実に回復しており、これに伴って「売上高」が増加している。しかしながら、人材不足に加え、原材料価格の高騰による収益逼迫や、部品・材料の供給不足による生産調整を余儀なくされる企業が出始めており、先行きは不透明感がみられる。

